

令和8年度（2026）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 学校関係者評価委員会は、令和7年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

令和8年8月19日

学校法人穴吹学園
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、専門学校穴吹リハビリテーションカレッジの自己評価結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、専門学校穴吹リハビリテーションカレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック	理事長
藤井 保貴	一般社団法人 香川県理学療法士会	会長
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会	理事
田岡 知代	医療法人社団 新進会 おさか脳神経外科病院	リハビリテーション部 顧問
中川 真人	医療法人社団 十仁会 介護老人保健施設 白寿の杜	リハビリ室長
中川 弘一	香川県立香川中央高等学校	校長
平尾浩一郎	香川県立丸亀城西高等学校	校長
西村 康江	学校法人穴吹学園保護者会 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ支部会	支部長
亀山 健太	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会	会長

(学校教職員)

上杉 敬治	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	校長
戸倉 潤也	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	副校長兼教務部長
植野 英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	副校長補佐
山下 良二	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	教務次長兼作業療法学科総括
村上 匡司	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	教務主任兼理学療法学科総括

3. 学校関係者評価委員会の実施日時

開催日時 令和 8 年 7 月 23 日（木）19：00～20：00

開催場所 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 302 教室

4. 委員長ならびに副委員長の選出

委員長に藤井氏、副委員長には樋本氏が立候補。全員一致で下記の委員が委員長ならびに副委員長の承認を得た。

委員長 藤井 保貴 氏 副委員長 樋本 英司 氏

藤井委員長の司会のもと、委員 8 名（同窓会会長の亀山氏は欠席）が出席され、過半数を超えていることより委員会の開催は成立であることを確認し、議事が進行された。

5. 自己評価結果の説明と報告（自己評価報告書参照）

香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式で作成した「令和 7 年度自己評価報告書」をもとに、「教育理念、目的」及び「令和 7 年度の目標と計画」について説明し、評価項目ごとの「評価結果（総括）」、「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」についても説明した。

また、各評価項目の自己評価結果と自己評価結果（総括）について説明し、総括評価が「A」評定であったことを報告した。

なお、各評価項目の評定方法は、「香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式」の 4 段階評価基準（「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である）に準じて実施している。

6. 意見交換、質疑応答

「香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式」の評価項目に従い、「教育理念・目的・人材育成像」、「学校運営」、「教育活動」、「学修成果」、「学習支援」、「教育環境」、「学生募集と受入れ」、「財務」、「法令等の遵守」、「社会貢献・地域貢献」、「総括」と「自己評価結果（総括）」の順で意見交換をすすめ、各委員より下記の質問ならびにご意見を頂いた。

◆卒業生の状況把握とフォロー策

同窓会等の活用

- ・大学等の事例として、定期的に名簿更新・連絡を行う仕組みがある。就職先や卒業後の状況把握が課題となる中、同窓会組織の有効活用が議論された。
- ・同窓会は穴吹学園全体およびリハビリテーションカレッジの 2 つが存在し、卒業生は基本的に全員加入。
- ・学校主導で直接確認すると身構えられる可能性があるため、同窓会や旧担任と卒業生のパーソナルな関係性を活かしたフレンドリーな情報収集・連絡網構築が有効であると提案された。

◆就業状況の把握と高校側へのアピール

進路指導上の視点

- ・進路指導を行う高校側としては、専門学校進学後の「就職実績」や「離職率の低さ」等のデータが極めて重要。

- ・丁寧な就業状況の把握・開示を行うことが、生徒や保護者への強力なアピール（安心感の提供）に繋がるとの指摘があった。

◆大学等への連携および情報収集

連携のハードルと情報収集

- ・単位互換や規程上の課題はあるものの、他の専門学校や知人・同窓が勤務する大学等を通じた情報交換・情報収集を継続的に進めていく方針。

◆入学前教育サポートの取り組みと効果

現状の施策

- ・業者テキストや Web を活用した入学前学習を実施。学習に対する取り組み姿勢や傾向の把握、入学後の個別指導に繋げている。

学生の変化

- ・入学前の取り組みにより学習意欲が高まる傾向が見られる。解剖学や運動学等の専門科目への戸惑いを軽減するため、リハビリコースに特化した基礎知識も盛り込んでいる。

◆作業療法士等の現状と課題

志願者・専門職認知の現状

- ・コロナ禍等の背景もあり医療業界全体で減少傾向が見られる中、作業療法士は理学療法士に比べ、一般学生（部活動での怪我等）が日常で触れ合う機会が少ないことが認知度の差に繋がっているとの分析が示された。

海外との比較・香川県の傾向

- ・アメリカ等の諸外国では小学校や発達支援の現場に作業療法士が配置されているのに対し、国内では身近な存在になりづらい背景がある。また、県内の高校生の大学志向の高まりも影響している。

◆ICT 教育環境整備（PC・タブレットの活用）

推奨端末の考え方

- ・高校等では Chromebook や iPad の導入が進んでいるが、本校では臨床実習レポート作成や卒業論文執筆、統計処理等の専門作業を考慮し、ノートパソコン（必要スペック提示、中古可）の準備を基本としている。
- ・持参したタブレットやスマートフォンの校内 Wi-Fi 接続・併用学修も可能。

保護者・進学元の負担軽減

- ・高校等で購入した端末をそのまま活用できる環境整備や、持ち込み運用の柔軟性について意見交換がなされた。

◆保護者面談・学習支援ルール

面談基準

- ・本試験（1 回目の期末試験）で 60 点未満（再試験対象）が 5 科目以上ある場合、または再試験で 60 点未満科目が 1 科目であった場合、本人・保護者・教員の 3 者面談を実施。

- ・単なる指導ではなく、躓きの「原因」を3者で確認し、今後の学習深化・点数向上に向けた具体策を話し合う方針を取っている。
- ・体調不良等による個別面談も適宜対応。

保護者側評価

- ・学校側と保護者間での丁寧な情報共有・サポート体制に対し、高い評価・安心感が示された。

◆国家試験不合格者へのアフターフォロー体制

学習サポート環境

- ・専用教室やミーティングルームの提供、過去問・参考資料の印刷・貸出。
- ・疑問点に対する各担当教員（元担任が窓口となり科目別教員へ繋ぐ）の個別指導。
- ・在校生と同タイミングでの模擬試験（有料・別室）の受験機会提供。

就労形態の推奨

- ・正規雇用での就職は学習時間の確保や体力的・精神的負担が大きいため、アルバイトやパート等の形態での勤務、または10月以降の試験直前集中期間を設けるスタイルを推奨。実際、この形態をとった学生の合格率が高い。

◆学校自己評価・第三者評価のプロセス

自己評価の作成手順

- ①担当者による原案作成
- ②全教員への提示と意見収集
- ③校長・副校長兼教務部長・教務次長・担当者（副校長補佐）4者構成の委員会にて最終確定

学生・保護者・教員の評価取り込み

- ・学生による授業評価アンケート（前後期実施、16項目、5段階評価＋自由記述「グッドポイント/改善点」）実施し、授業改善に活用。
- ・教員評価（出席管理や指導記録等）も行っているが、教員満足度の数値化や可視化、アセスメント表の活用が今後の検討課題。
- ・次年度以降は、私学法改正・文科省ガイドラインに対応し、第3者評価に則ったフォーマットへの刷新、および各種担当者や外部視点を含めた「自己評価委員会」の厳格な運用を進める計画。

◆教育方針および軸の維持（まとめ）

様々な立場（学生、保護者、第三者）からの意見を取り入れ、可視化・改善を行う重要性とともに、時代の変化（現場の多用化や新人の価値観の変化等）に対応しつつも、「**学校としてブレない明確な軸・理念**」を持ち続けることの重要性が共有された。

委員の皆様から賜りました貴重なご意見を参考にさせていただき、理学療法士および作業療法士養成教育の学びの場として、より良い学校作りを目指して教職員一同、日々努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

以上